

いつも心に川がある

堀川まちづくりの会企画展

舟運・筏・川遊び 堀川のにぎわい

川岸の料亭 武士は堀川で水練

川岸の料亭

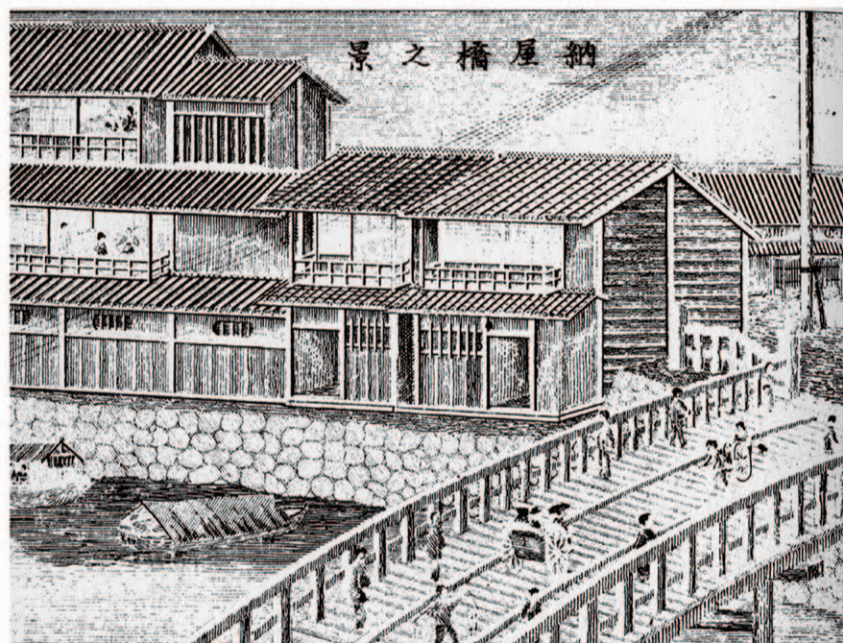
堀川の岸边には、料亭もあった。

とりわけ有名なのが今の小塩橋西付近にあった料亭「大吉楼」。『名婦之里』に「名府絶景の内 大吉楼夕景」として紹介されている。金鯢輝く城を左手に、下には「ぎーぎー橋」と呼ばれた朝日橋が描かれ、堀川対岸に今を盛りと咲き誇る桜並木。大吉楼上ではお大尽が春爛漫の夕景色を肴に一杯きこしめしている。



大吉楼の楼上で憩いのひととき 『名婦之里』

また、納屋橋南西には文政11年(1828)創業の得月楼があった。得月の名は天保年間(1830～44)に、『日本外史』などの著作で有名な頼山陽が付けたと言われている。明治になると坪内逍遙や芥川龍之介も宴をはったと記録され、昭和19年に廃業した。戦後は経営者が変わり、以前の建物を使って鳥久として営業していたが、平成26年に廃業してその後焼失した。

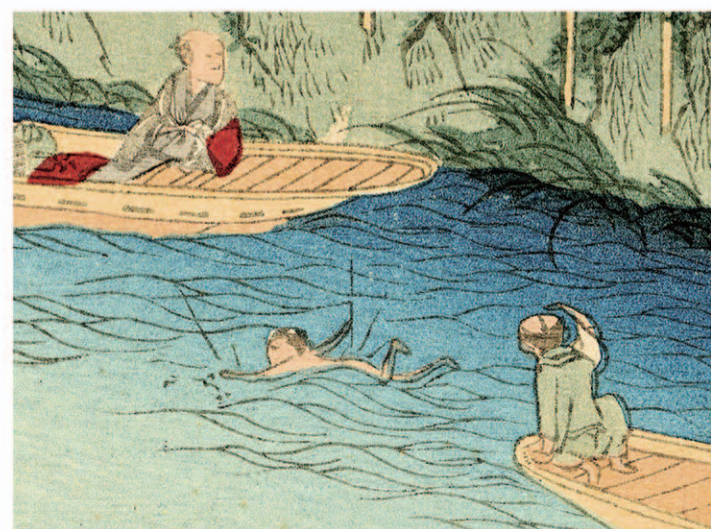


明治23年頃の得月楼と納屋橋 『尾張名所図絵』

武士は堀川で水練

堀川は、藩士の水練所としても使われていた。

場所は「沢観音下堀川通西側堤下」に小屋を建てたというから、今の住吉橋の下流西岸あたりだ。延享2年(1745)7月に、「五十人組」の水稽古のため小屋を建てている。小屋は毎年シーズン毎に建て、終わると壊す仮設のものであった。五十人組とは、殿様に拝謁できる御目見得なので一応上士ではあるがその中では軽い身分の武士で、警備や軍事を担当する番方である。武芸百般の一つとして堀川で水練に励んだのであろう。



堀川花盛・部分 『尾張名所団扇絵』

庶民も堀川で泳いでいるが、庶民ゆえ記録には残っていない。『堀川花盛』の絵には、花見酒に酔って飛び込んだのだろうか、堀川で泳ぐ人が描かれている。